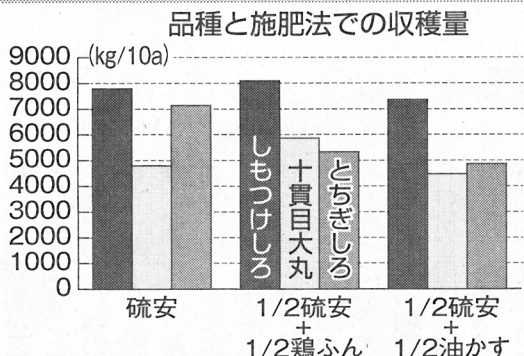


農業技術 プリズム

ユウガオは6〜8キロになる果実を利用する野菜で、主にかんぴょうに加工されます。近年、国産野菜の需要の高まりとともに、見直されている品目の一つです。



ユウガオの適正種

諫早湾干拓地で栽培
しもつけしろが多収

ユウガオの主産地である栃木県と比べ、暖地の長崎県では、抑制型の作型により6月から10月まで長期間収穫できるメリツトがあります。
県内食品加工業者から安定し

栃木県で広く作られている「しもつけしろ」「とちぎしろ」と全国的に栽培実績がある「十貫目大丸」の3品種で、諫早湾干拓地における適応性を検討しました。3品種の中では「しもつけしろ」の収穫量が10㎡当たり約8kgと最も多く、果実の形状も球形に近い加工しやすいものが得られました。

ユウガオ栽培には10㎡当たり20kgの窒素量が必要ですが、環境に優しい施肥法を検討するため、窒素量の2分の1以上を菜種油かすまたは発酵鶏ふんで代替する試験を行いました。

その結果、2分の1を発酵鶏ふんに代替した「しもつけしろ」が多収となりました(図)。これは、鶏ふん施用の「しもつけしろ」は初期から着果数が多く、収量を確保しやすいことに起因します。

今後は品質向上や作期拡大の試験を行い、ユウガオ栽培マニュアルを完成させたいと考えています。

(農林技術開発センター 松尾憲一)

た原料供給の要望もあり、栽培技術の確立が求められ、農林技術開発センター干拓営農研究部門ではユウガオの栽培試験に取り組んでいます。その中から諫早湾干拓地に適した品種と施肥法について紹介します。